# われもこう 第9号

２００１年２月１８日　発行

軽井沢からほとんど姿を消してしまった湿原や草原、
そこに咲いていた野の花たち・・・
数十年前にはありふれた花だったのに
今では幻の花になっしまったものも多いのです。

## 空き地に野の花を！

われもこうの会では「前沢の原っぱ［北］、［南］」に続き、昨年より市村記念館駐車場脇の空き地を町からお借りして「市村の原っぱ」と名付けました。季節を彩る野の花でいっぱいの原っぱを目指し、今年も活動していきます。

## 原っぱをつくろう！

われもこうの会は種から育てた軽井沢の野の花を
町じゅうあちこちに咲かせるお手伝いをしています。
歩道の植栽スペースや駐車場の片隅でもいいんです。
行き場を失った野の花たちのために小さな原っぱをつくりませんか？
軽井沢にもともとあった花なら、きっと元気に育つでしょう。

# 身近な帰化植物

私たちにとって、一番身近な自然と言えば、庭・空き地・道路脇・田畑の回り、川・ため池、などの植物や動物などですね。

でも最近、その景色が昔と変わってきていると言われています。皆さんは気がついてますか。

オオイヌノフグリ・ハルジオン・シロツメグサ・タンポポなどありふれた植物としてごく身近に見ることができます。こうした植物は、人が荒廃させてきた環境のなかでたくましく生きていて、植物を知らない人の目にはコンクリート砂漠の中の緑のオアシスとして映ることもあるでしょう。

しかし、その身近な植物たちは多くが『帰化植物』といわれる、外国から入ってきた植物なのです。人や物資の往来にともない入ってきた植物です。

帰化植物の繁栄の陰で、われわれの祖先が慣れ親しんだ、在来の植物が姿を消しつつあります。私たちの身近な自然は、祖父母や父母の子ども時代の身近な自然とは大きく変わってしまいました。

今ではどこに行っても同じような植物が見られるようになってきています。

生物の均一化がおこっているのです。種の多様性を維持するためにも、競争力が劣る在来植物は守っていかないと、絶滅してしまいます。

また、環境の人工的変化は、特定の環境のみに成長する植物にとっては、定着することが不可能となってしまいます。

競争種としての性格の強い

オオブタクサ

オオブタクサの種

オオブタクサという草をご存じでしょうか。

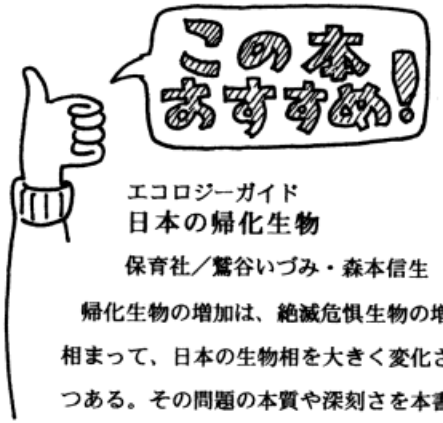
オオブタクサは一年草にもかかわらず、大きな種子で、春早くから芽をだし、成長速度が早く、地下に広く根をはる性質があります。

競争能力にすぐれ、環境に左右されず、競争種としての性質も備えているオオブタクサは、サクラ草などの環境の変化や競争に弱いものと置きかわろうとしています。

皆さんオオブタクサを見つけたら、他の植物のためにもぜひ採ろうではありませんか。

（参考・「日本の帰化生物」保育社）

オオブタクサ




エコロジーガイド

**日本の帰化生物**

保育社／鷲谷いづみ・森本信生　共著

帰化生物の増加は、絶滅危惧生物の増加と相まって、日本の生物相を大きく変化させつつある。その問題の本質や深刻さを本書を読んで知ってもらえればと願うものである。



軽井沢の貴重植物

## アズマイチゲ

（キンポウゲ科・いちりんそう属）

開花4月～5月

花色　白

草丈10センチ～15センチ

会員何名かにこの花のことを聞いたところ、塩沢の神社周辺と旧軽井沢すわ神社の土手に咲くそうです。昭和30年代頃は発地にもあったようですが、今は見かけないそうです。

根茎が横にはい、ところどころに紡錘状のふくらみがあるので、ここ軽井沢では別名「いものはな」と呼ぶそうです。

今年どこかで、この花に会えるといいですね。

（参考本「日本の野草」山と渓谷社）

## 会員の声

「空き地に　野の
花を」・・・そんな呼びかけ
を聞いて、花の事などなんにも知らない
私がこの会に入って丸二年。
いまだに、おみなえしと松虫草の芽の区別もつかな
いのですが、
先輩がたに、花や草の名前を教えていただきながら楽しんでま
す。
（草にまつわる「昔のわらべうた」を発見したり、おもしろいです
よ。）
作業が終わって、一息つきつつおいしいお茶を飲みながら、
アサマキスゲの揺れるなかで、人生の妙をお聞きしたりする時間
は、いまでは本当に大切な時間です。
「軽井沢に昔からあった野の花ってこういう花なのか...」
と目で覚え「生態系って、ビオトープってなに？」・・・
と、新しい事を勉強することも、自然と仲良くなっ
ていくようで嬉しいですよ。
あなたも、春からそんな気持ちを一緒
に感じてみませんか！（hiro）

知ってますか？こんな資格

## ビオトープ管理士

最近、”ビオトープ”という言葉を聞いたり、目にしたりした人も多いと思います。“ビオトープ”というのは、ドイツ語で「生物空間」という意味の新語です。多様な生物が生息できる地域のことです。

環境問題に関心の深いヨーロッパでは、自然生態系との共生を地域づくりの最優先課題として位置づけています。たくさんのビオトープを連続させることによって、国境をも越えたビオトープ・ネットワークを作ろうとしています。

日本でも新たな環境政策としてビオトープ事業に注目が集っています。環境 NGOの（財）日本生態系協会はビオトープ事業に携わる技術者の育成と質の向上を図るために創設した制度です。

1級ビオトープ計画管理士・同施工管理士
2級ビオトープ計画管理士・同施工管理士　の４つに分かれています。

・受験申込受付期間は　６月から８月頃
・試験は、１２年度には９月に行なわれました。（年１回）
＊詳細は（財）日本生態系協会 ビオトープ管理士係へ
tel.03-5954-7106　fax.03-5951-0246
URL http://www07.u-page.so-net.ne.jp/mu2/ecojapan/

◆「われもこうの会」の会員でも２級ビオトープ計画管理士の資格を持っている人がいます。
受験したい方に受験の経験・コツをお教えできます。

サウラソウ会議 事務局　sauraso@ninus.ocn.ne.jp
長野県北佐久郡軽井沢町長倉２７２０－３
０２６７（４５）１５６３ 須永久宅

---

軽井沢に野の花を増やす会

# 「われもこうの会」

にあなたも参加してください

## 小さな小さな編集室

雪の降り積もった朝、リスや野ウサギの足跡を見つける楽しい季節・・・この冬は久しぶりの大雪で、雪かきの合間をぬっての「われもこう」づくりでした。

寒い冬の土の中で、今年も精一杯の花を咲かせようと野の花が準備しています。

春が待ち遠しいですね。

発行／「われもこうの会」　事務局／TEL.0267-46-2393　FAX.0267-46-2370